



(伊勢志摩国立公園・英虞湾)

目次・主な内容

■ 理事・役員会	2	■ 第36回三重労使会議	13
■ 特別講演	3	■ 新規学卒者の初任給	14
■ 経協新副会長	5	■ 安全功労者消防庁長官表彰	15
■ トップインタビュー	6	■ Window事務局	17
■ 経協事業活動	10	■ 行事予定・業務日誌	18

理事・役員会開催される

去る9月21日（木）プラザ洞津3階「孔雀」にて開催（参加者28名）。開催に先立ち、永年、当協会の副会長であられました、(株)安永 安永雅彦社長が過日6月29日ご逝去されましたことに、全員で故人のご冥福を祈り黙祷を捧げました。



会長挨拶

理事・役員会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。平素は当協会の諸活動に際し、何かとご理解、ご支援をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

さて、景気の回復も2002年2月から拡大を続け、本年11月には「いざなぎ景気」の57ヶ月を抜き戦後最長となることが確実と言われていますが、県内企業の状況は需要増を背景に設備や人手不足感が続き、研究開発や人材育成などの投資にも関心が高まり景気の足腰は依然として強いものが見られます。特に雇用状況での有効求人倍率は1.43倍と愛知・東京に次いで全国第三位、来春高卒求人も1.37倍と全国九位の高水準であります。しかし、県内でも東紀州地域での有効求人倍率は0.49倍と全国最低ラインに近い数字であり、業種や中小企業などにおいては、まだまだ景気の回復には至っておらず、来期の見通しも悪いと答える企業も多いと聞いております。

当協会としましても、今年度の基本方針に沿って「雇用対策」「人材育成」「会員サービスの強化」の三点に重点を置いた取り組みとその活動が合意されており、「雇用対策」では県内各大学、高専と経協会員の情報交換会の開催、若年者、女子、高齢者の雇用問題についてはインターンシップや労使就職支援機構との歩調を図り、「人材育成」では、第16期を迎えています「労務管理改善協力委員会」もテーマ、メンバーを一新して新しい活動を始めていますし、また、新企画として各社の人事、労務担当者の世代交代に答えた「新任人事、労務管理者養成

講座」は定員をはるかに超える申し込みがあり、各社の人材育成のお役にたてるものと確信を致しております。「会員へのサービスの強化」には「労働実務相談日」を設け問題解決や情報の提供、交流の場としての役割を高め会員相互の活性化が図れるように努力をして参りますこととし、さらに、今後も日本経団連の地方組織として連携を図り経営者協会の主体性と独自性を活かし「人」の問題に軸足を置いた活動を積極的に展開をさせて参りたいと考えていますので、今後ともみなさん方の心強いご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

1. 理事・役員会

会長挨拶のあと事務局より労働経済情勢報告がなされ協議事項、活動報告（以下の通り）につきましては、異議もなく承認されました。

2. 協議事項

- (1)平成18年度前期事業活動報告
- (2)平成18年度前期予算執行状況
- (3)副会長人事について……伊賀・上野地区の代表として(株)安永、代表取締役社長、高崎征輝様が承認されました。

3. 活動報告

- (1)労務管理改善協力委員会
- (2)インターンシップ受入企業開拓事業（厚生労働省委託事業）
- (3)第36回三重労使会議（9月13日）
- (4)みえ雇用創出会議、作業部会（8月23日）
- (5)第6回経協活性化プロジェクト（8月11日）
- (6)三重県地域労使就職支援機構総会、講演会（7月11日）以上、詳細な内容につきましては、経協事業（11P）に記載をさせていただきました。



特別講演……「記者の目から見た日本」

中日新聞社 常務取締役 小出 宣昭氏

理事・役員会終了後に特別講演会を開催（参加者40名）



■講師紹介

小出先生は早稲田大学第一政経学部をご卒業後、中日新聞社に入社、社会部記者、ロンドン特派員、編集局長等新聞発行の要となる取材と編集に携わってこられ、現在は編集のトップとして、報道を通し幅広くご活躍をされておられます。今、中日新聞120周年記念、「時代を活かす叡知」トップに聞く記事が掲載されていますのでご参考にして頂ければと思います。

■講演要旨（※紙面の字数制限の関係上、言葉を省略していますのでご了承をお願いします）

中日新聞の小出でございます。私は新聞記者を38年やっておりますが、記者というのはどこまでいっても、素人の目でものを見なくてはなりません。例えば幕末から明治維新にかけて政治とか外交の専門家は徳川幕府の旗本で最高の情報をいっぱいもっていたとのことですが、ところが、その時代の本当の流れを観ていたのは、薩摩や長州の田舎侍の方が、はるかにハッキリみえていたことであり、ジャーナリストというのは幕末から維新にかけての薩摩や長州の田舎侍の目で、じっと時代を見ることであり、私も新聞をつくるという素人の立場で、近代史、現代史の流れをとらまえた中で、今、日本がどのような、かっこうになっているかということについて、その一端でも、ご紹介できればと思います。

1. 新しいニュースとして

9月5日、名古屋鶴舞公会堂で自民党総裁選東海ブロック大会が開催され3,000名参加の中で、安倍さん、麻生さん、谷垣さんの対談があり、私とそのコーディネーターを担当しましたが、その事前打合

せの雑談から私の受けとめでは、安倍さんは人がいい。しかし一抹の危惧はもつ、なんとなく他人の言葉でしゃべっている。麻生さんは自分の言葉でしゃべっている。ジャーナリストはしゃべる雰囲気、間合い、表現方法から本物を見つけていくわけですが、麻生さんは魂がこもっている。谷垣さんはちょうど安倍さん、麻生さんの中間ではないかと見られることです。

また、小泉さんとも何度かお会いをしましたが、それなりに、すごいし、チームがあり、迫力があり話をしていても、こちらがくたびれるという感じです。先般、新聞に田中真紀子さんは小泉さんの反対の立場ですが、小泉さんは四尺玉花火（パッーとはじける）で安倍さんは子供の線香花火だと発言されており、私もうまい表現的を得ていると思いました。昔から男はポストによって育てられ、ポストが人をつくると言われており、私も安倍さんのこれらについて注目をしていくことにしています。

新総理には様々な課題がありますが、重要なことは、アジアの問題です。日中、日韓関係は冷え込んでおり、放置すると日本は大変なことになる。特にアジアは心の問題であり、「心」というのは他者への思いやり、あたたかい思いやりが大切だと言えます。

2. これからのアジアとの関係について

これは、もとはと言えばアジア政策（入亜）の失敗といえる。アメリカの調査会社が「中国人と日本人」のどちらが好きですか、との問いに8割の人が中国人の方が好きですと答えており、このことは第二次世界大戦において米国と中国が歩調を合わせていることでも良く理解できますし、又、世界のどこにいても中国人はみえるし、中華料理店はどこの



国にもあり、地域に根ざしていることから、まさに中国文化は世界文化であるといわれる所以です。1979年、世界卓球大会を台湾・中国のどちらで開催するかの時、世界卓球連盟は台湾をやめ国交のない中国に決めた。早速アメリカの卓球団を中国に受け入れ、両国の交流は大変、友好的であった経緯があり、東京か北京かと言えば米国は北京を選ぶし、又、北京大学をつくったのもアメリカ人であり米中の関係は根っこの部分で強くつながっていることでもあります。以上のことから、次期総理に最も近い(1)安倍さんが小泉的な外交から脱せるかですが……戦後60年で精算したと言われるが歴史的な精算はできません。このことは人間の命の問題であり、国際的にも通用しない論理であるからです。

(2)小泉さんの民主主義はつきる所、自由と平等である。英国は世界で初めての多民族国家であり(連合王国、UNITED KING)これを拡大化したのが米国である。大切なことは、多民族国家では平等は成り立たないので、この代償が自由である。ロンドン駐在時に新聞記者の友人から日本の戦後の復興原因は何かと尋ねられ、私は民主教育、デモクラシーと答えた。友人は、人それぞれに能力、人格、性格も違うのに何故なのだ。デモクラシーは法律の前にだけの自由であって平等はフィクションである、とのことでした。日本は世界にもまれにみる均一国家で得意なのが平等(日本の源流は農耕民族であり、こつこつやるのが美徳とされ、出る杭は打たれるという)であることを説明したことがあります。

明治になって始めて企業というものが入ってきた。独国では会社のことをゲゼルシャフト……人格の一部だけでつながっている人間集団とゲマインシャフト……全人格的なつながりの人間集団(日本と言えば商店家族)と区別しており日本では、歴史上の藩も同じで会社は家という概念はなくなることである。

さらに、何年か前にライブドアが日本放送・フジテレビに仕掛けたが失敗、この時、私は始まりの段階として文明の衝突と書いた。明治になって会社が出来て、その近代的な会社をつくった根っこは「和魂商才」であり企業の風土は日本で技術は西洋と使い分けをしてきたことである。日本の会社は精神において家族的な源流があり、小泉さんはなんでも自由(欧米のように)にしなくては行けないと、これを壊そうとした。

3. これを安倍さんが、どう解釈し対処するかであ

る(自由と平等について)

捨てるよいいもの、捨てるはいけないもの、日本にしかないものは守ることです。小泉さんがいう改革は全部、金の問題です。バブルでもうけたのは官であり、バブル時に補正予算ばかり組んで、おさめきれないのが裏金で、その官と政治家の責任はとられていないのです。

4. これからどういう時代になるか……21世紀は空間をどう扱うかである。

当社の21名でブレインストーミングをやり、そのまとめとして、日本はいままでは日本という家をつくった。問題はここに住む人の幸せ(空間)が大事と気づいたのが21世紀です。地域づくりをみても、滋賀県米原に新幹線の駅をつくったが、明治以来、ここに人が住まないし、住むのは彦根です。岐阜県羽島駅もそうであり中心は岐阜市である。反面、ロンドン、パリ、ミュンヘンは活気はないが住みたくなる街である。要は奥行き、落ちつきの時代になっている。日本でも、流行歌が物語るように40~50年代の中心は東京であって、50年代半ばからは東京を舞台にしたヒット曲はなく、あこがれの地が東京でなくなっていることです。

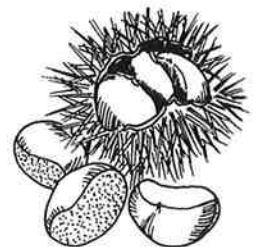
もう一つは少子化である(少子化は質の問題である)

少子化は親戚をなくす社会であり、長男、長女の家族構成である。経済成長でも、数字がどのように、その国で暮らす人にどう影響を与えるかであり、私の地域の感覚としては、毎年、毎年生活の風景が変わったのは1970年(昭和45年)であり、今の35才の人は日本の変化を知らないことです。これからは歴史的には徳川時代のように静かで落ちついた社会のような武士道精神が大事であり、このことが日本を変えていく、落ちついた時代になっていくことにはかわりないし、全体の流れを見据えながら、行動をしていくことが大切であるとのことでした。

講演中、みなさんも目を輝かせ、メモをとり、うなづいたり、大変、有意義な内容でした。

(文責 事務局)

※9月20日、安倍氏が自民党総裁に選ばれ、26日には内閣総理大臣にられました。



経協新副会長

去る6月16日(金)、経協18年度会員総会並びに9月21日(木)、理事・役員会におきまして新しく2名の副会長が満場一致で承認されましたので、ご紹介をさせていただきます。



黒川 正機氏
(くろかわまさき)

東邦ガス株式会社
執行役員(三重駐在)

このたび、三重県経営者協会副会長に就任を致しました東邦ガス株式会社の黒川でございます。

私が当協会と関わりましたのは弊社の合併前、合同ガス(株)の総務部長時代にビデオライブラリーの会員として出席をさせて頂いたことと平成8年5月に三重県労福協のニューライフ海外調査に経営側のメンバーとして参加をさせて頂いたことです。当協会は県下における産業界の牽引役として多大な貢献をされ、本年7月には創立60周年という大きな節目を迎えられるという伝統ある総合経済団体であり、副会長という大役を仰せつかり身に余る光栄と存じますと共にその責任の重大さを痛感しているところです。

企業経営を取り巻く環境もグローバル化の進展や人口減少・超高齢化社会の到来等大きな変化に入りつつあります。企業は安易に国際競争力、オンリーに走るのではなく、確固たる経営戦略やコーポレートガバナンス(企業統治)さらには地球環境への配慮といった取り組みが強く求められております。また、現状ではハイスピードで少子高齢化が進展し、これまで企業の成長を支えてきた人材が大量に退職を迎えるにあたり、モノづくり技術の伝承や人材の育成と確保などの重要課題は山積しております。奥田新会長の下、微力では、ございますが、誠意をもって努めさせて頂く所存ですのでみなさま方のご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

●プロフィール

- 昭和20年4月30日
- 生年月日/ 昭和43年3月 日本大学経済学部卒業
- 最終学歴/ 昭和43年4月 合同瓦斯株式会社 入社
- 経歴/ 平成7年6月 同社 総務部長
- 平成11年3月 合同液化ガス株式会社へ出向
- 平成15年4月 東邦ガス株式会社
三重支店 営業部長
- 平成17年10月 同社 西部支社 支社長
- 平成18年6月 東邦ガス株式会社
執行役員(三重駐在)(現職)



高崎 征輝氏
(たかさきまさてる)

株式会社 安永
代表取締役社長

このたび、弊社の安永前副会長が急な病に倒れました後を受けまして、副会長に就任しました、株式会社安永の高崎でございます。三重県経営者協会は、地域社会を支える重要な役割を担った総合経済団体と認識をしており、今回はその協会の副会長を拝命致しまして、これから果たすべく役割を考えますに、その重さに身の引き締まる思いでございます。さて、三重県経済は地域・企業規模・業種における格差はあるものの概況としては懸念材料である原油価格の高止まりで業種・規模を問わず収益への影響は顕著であり慎重な見方が広がっておりますが、需要増の背景を受け設備投資意欲は旺盛で人手不足感が続き、景気の足腰は強く、研究開発や人材育成など先行投資的な課題への関心も高いとの調査結果も出ております。しかしながら、グローバル化が進み企業を取り巻く経営環境の変化は予断を許さない状況にあるのは事実でありまして、各企業は絶えず企業体質の強化を迫られる等厳しい経営を余儀なくされております。こうした時代環境の中で地域社会と共に企業が発展して行く為には、より企業間のネットワークを強化すると同時に上部団体である日本経団連と連携し各種政策に企業の意見を反映させ、さらにタイムリーな情報提供、そして経営環境の変化に対応できる人材育成、労使問題等、ますます協会の使命は高まっていくものと考えられます。

奥田会長の下、県内産業と地域社会発展に向け、微力ではありますが、重責を果たしてまいりたい所存ですので、何卒ご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

●プロフィール

- 生年月日/ 昭和20年6月17日
- 最終学歴/ 昭和43年3月 大阪工業大学工学部 卒業
- 経歴/ 昭和43年4月 株式会社安永 入社
- 平成2年4月 同社FA機器部長
- 平成11年7月 同社自動車部品事業部長
- 平成13年6月 同社取締役生産部門統括
- 平成15年6月 同社代表取締役常務
- 平成18年7月 同社代表取締役社長(現職)

★トップ interview★



会員企業各社、トップの素顔に迫る「トップインタビュー」。第5回目は経協副会長であります(株)東芝セミコンダクター社 四日市工場工場長 戸澤周純さんにお話を伺うことができました。

世界NO.1のCost力を 持つ先端メモリ工場へ

(株)東芝 セミコンダクター社四日市工場 工場長 戸澤 周純さん

～東芝の半導体工場の一つとしてNAND型フラッシュメモリーを中心とした半導体メモリー生産の重要拠点として、製品を世界に送り出してみえるとのことですが、私たちの日常生活、又産業分野でどのような使われ方をされており、その活用についてお聞かせください～

東芝の半導体工場は国内に12拠点、海外に4拠点あり、世界各国の産業や人々の生活など現代社会の高度情報化を支える半導体製品を生産しています。その中で当工場は半導体メモリー製品の生産拠点として、1993年に創業を開始し、最新の生産技術を結集し半導体のNAND型フラッシュメモリーの生産を行っています。需要の拡大に伴い本年8月に第四工場の建設に着手し来年7月完成予定ですが、この規模は世界最大のものになるのではとされているところです。

NAND型フラッシュメモリーの使われ方として、私たちの目に一番ふれるのは、各種のメモリーカードです。SDカード、コンパクトフラッシュ、メモリースティック等々いろいろな種類のカードを各社が製造・販売していますが、どのカードの中にも入っている半導体がNAND型フラッシュメモリーです。またNAND型を含めた各種の半導体メモリーを重ね合わせ、一つのパッケージにしたMCP(マルチ・チップ・パッケージ)も当工場生産しており、携帯電話の本体の中に組み込まれています。ここ数年パソコンの記憶装置として使われていますUSBスティックもNAND型フラッシュメモリーが入っていますし、二年程前から国内でも爆発的に人気のある携帯音楽プレーヤーにも使われています。NAND型フラッシュメモリーの特長は電源を切っても記憶内容が消えず、デジタルで記憶でき、しかも消費電力が非常に少なく、衝撃に強いことから携帯型のカメラ、電話、音楽プレーヤーの記憶部品として、用途が広がり、近い将来にはDVDやHDDと共にビデオカメラの記憶部品、さらにはパソコンのHDDもNAND型フラッシュメモリーに置き換わってくるものと思います。(※フラッシュメモリーという言葉が広く使われていますが、いろんなことを、イメージしこのネームづけしたのが東芝ですと話され大変、参考になりました。)

～アメリカのサンディスク社と共同出資でNAND型フラッシュメモリーの新工場建設にと事業拡大に向け取り組まれています、その担い手であります人材育成、技術革新への対応について大切にされていることをお聞かせください～

事業拡大に伴い急激に人員を増加させていますが、当工場は自動化が進み、各種マシンのメンテナンスとその改善能力が要求されることから高い技能をもっている人材が求められています。東芝の他工場からの人事異動が中心になっていますが現地での採用も行っています。今後はどうやって、その人達の技術力を高めていくかが課題ですが、教育計画に基づき早期戦力化に向けたoff-JTとOJTを継続して行っています。

～工場の運営理念並びに行動指針についてお聞かせください～

四日市工場の目指す姿として「世界No.1のコスト力を持つ先端メモリー工場」をスローガンとして世界をリードする半導体の生産拠点になることです。その為に大切なことの一つはコスト力をつ

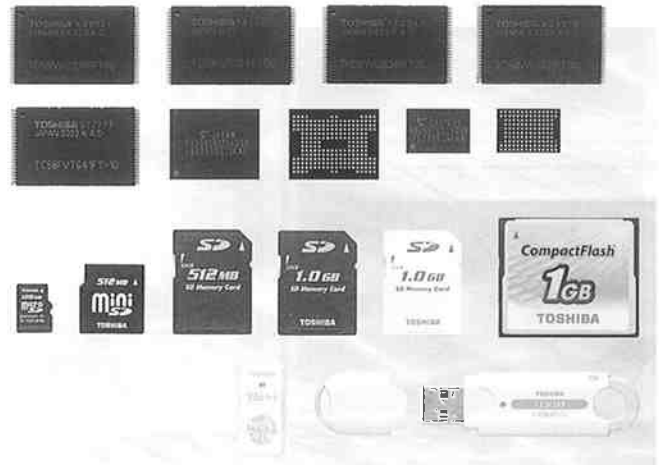


四日市工場

けること、もう一つはあらゆる顧客の満足度向上であります。その具体的な取り組み項目を明確化しセーフティでスピーディに実践をしていくことが、私たちの使命です。東芝グループスローガンは「人と地球の明日のために」です。中でも四日市工場は安全で信頼される工場として、積極的な環境保全活動を推進し、会社としての環境報告書に加え工場としても独自の環境報告書を発行するなど、各界、地域へ広く情報発信しています。

～工場長さんのご趣味又は休日の過ごし方はいかがですか～

私は単身赴任ですので、休日は買い物したりパソコンで仕事のチェックをしたり、仲間とゴルフをしてリラックスしています。以前は映画が好きでよく観にいきましたが、最近はおぶさたをしています。又家族は神奈川ですので、定期的に帰るようにはしています。



半導体メモリー

～経営者協会へのご意見、ご要望がありましたらお聞かせください～

正直なところですが県庁が津市にあることからか、北勢地域に情報が伝わってこないことがあります。また今後の大きな課題である「人材育成」については経協のバックアップを是非お願いしたいと思います。

～最後に今後の抱負について考えておられることをお聞かせください～

世界各国の産業や人々の生活など、現代社会の高度情報化を支えています。四日市工場は半導体メモリー製品の生産拠点として、最新の生産技術を結集しつつ、各種最先端メモリーを常時世界各国に送り出していますが、これからのデジタル社会化に対し「魅力ある世界No.1のNAND型フラッシュを中核とした最先端メモリー工場」の実現に向けて地域社会と共にさらなる向上を目指し取り組んでいくつもりです。



四日市工場環境報告書



懇談会

◆インタビューを終えて◆

今回は、現代社会の高度情報化を支える半導体メモリー製品の生産拠点として世界的にも注目されています(株)東芝セミコンダクター社四日市工場の戸澤工場長さんにご協力を頂きました。世界的規模での熾烈な競争下において先々を見据えての研究開発力とたゆまない企業努力には感動をさせられました。工場長さんから私はいつも「明るく」(何でも話し合える)・「楽しく」(仕事を好きになってください)・「厳しく」(数字にはこだわりましょう)を支えに、その輪を根強く広げていますとおっしゃられたことが、これからの東芝セミコンダクター社が躍進を続ける大きなパワーとなっていくものと強く受け止めることができました。(平成18年9月5日、事務局)

◆戸澤工場長経歴

昭和26年4月3日生

学歴

- 昭和52年3月 横浜国立大学大学院工学研究科 金属工学専攻修士課程修了

職歴

- 昭和52年4月 株式会社東芝 入社
- 平成10年7月 四日市工場製品技術部長
- 平成14年7月 四日市工場メモリー後工程統括部長
- 平成16年4月 マイクロエレクトロニクスセンター所長
- 平成17年4月 四日市工場長 (現在に至る)

●追悼 ～経協藤井前会長を偲んで～



当協会会長としてご活躍いただいた 三重交通株式会社相談役 藤井賢三氏が2006年10月13日にご逝去されました。

故人のご功績、お人柄を偲んでここに謹んでお悔み申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

～故人が好まれたひとこと～

「信念にもとづく自信、人柄からくる強さ、謙虚さを伴う品格、叡智に裏打ちされたユーモアを」

(労務改善No.53より)

三重県経営者協会顧問
三重交通株式会社 相談役

藤井 賢三さん

後に続く私どもの希望の星・力強い兄さん

私が課員の時の課長、課長の時の部長として長い期間に亘り同じ職場でご指導を頂いた数少ない先輩であり、私にとりましては憧れの兄さんでした。

故人は京都大学法学部をご卒業後、同年近畿日本鉄道株式会社に入社され、企画部門では持ち前の力量によります幅広いご活躍は、わが国の民営鉄道業界でも広く知られるところであり、後に続く私どもの希望の星でありました。

平成8年には専務取締役役に就任され、引き続き近畿工業、近鉄バス、大阪近鉄バフファローズの各社長を歴任され、それぞれの事業発展に大きな貢献をされたその人望は、多くの方々から慕われる所以です。

平成13年6月には三重交通の会長に懇請され、グループ各社の再編など状況打破に向け数多くの課題に取り組み、本格的なグループ経営への道筋を開かれ、その重責を私が引き継ぐことは真に天命と意を新たにしています。

変革が続行した時代を生き抜かれた故人は、温厚で誠実なお人柄はまったく変わられることなく、信念を貫かれたその度量の大きさに多くの後輩が勇気づけられたことでした。

ありがとうございました。どうぞ安ならかにお眠り下さい。



三重県経営者協会 会長
株三交ホールディングス 代表取締役社長
三重交通(株) 取締役社長 奥田 卓廣

人柄・傾聴に感銘

藤井前会長が会長に就任されたH.14年は、春季交渉もベアゼロが2年目となり、企業の事業構造改革が一段と進むと共に、大企業の不祥事が発生するなど、労使にとって明るい話題が少ない時期であったと記憶しております。

こうした情勢の中にあっても藤井前会長は、私たち労働側の意見を優しく丁寧に聞いていただき、その度量の大きさを感じておりました。同時に、労使の話し合いがより充実したものになるように、常に前向きな姿勢を示していただいたことも有り難く思っておりました。

また、近鉄球団の社長をされていた経験から、H.16年のプロ野球選手会のストライキに対して心を痛めておられたことも印象深いものがあります。

これまでのご厚情に感謝するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

日本労働組合総連合会三重県連合会

連合三重 会長 千田 喜久治



地球号の日本クルーは気概を持って

故人には公益事業をあずかるトップとしての心構えを経協・津ロータリークラブを通じて温かくご指導いただきました。いつも地球規模での日本の将来を語られ、気風がともすれば荒々しくなる世相を憂慮し、秩序ある日本を目指そうと説いておられたことです。

ここに、三年前ロータリーで故人が語られた格調高い卓話を記させていただきます。

日本は地球上で大変恵まれた国である。四季の変化を楽しめ、日照時間も長く、国土の70%が山であり、保水力も優れており、水に不自由をしない。世界の中の日本を見ればGDPは第2位、貿易輸出入金額は第3位、時間当りの実質賃金は第1位、政府開発援助は第2位と日本国がいかに凄いかよく解る。日本の元氣な時代は第1期が戦国時代、第2期が明治維新である。明治4年、ちよんまげ姿の岩倉具視が47歳で日米通商条約の制定交渉にのぞんだ時の演説は、「水のしずくが我々のいくつもの河川から日米両国を隔てている共通の大平洋に注ぎ込んでいる。一旦、混り合った水を分離することが難しいように国家間の友情も分離しがたいものであることを願うものです」。臆することなく米国を対等と考える気概に感動を受けた。その堂々たる見識は礼儀正しく、使節団としての高い志、これこそ、日本人が求めているものだとは結ばれた。

熱く語られたお姿が今でも目に浮びます。



東邦液化ガス三重(株) 取締役相談役 江崎 俊夫
(三重県経営者協会前副会長)

旺盛な責任感に敬服!

(社)三重県雇用開発協会の会長は、従前から三重県経営者協会会長にご就任いただいております、藤井会長には平成14年5月からご尽力を賜ってきました。

私は、平成18年4月から当協会にお世話になりましたので、藤井会長に接見したのはわずか2度ですが、当協会が(社)三重県障害者雇用促進協会と事業統合された激動の時期に、高い見識をもってご教導いただきました。既に、体調は万全ではない状況の中で、統合元年度の理事会だからと言って、ご出席いただいた旺盛な責任感と謙虚さ、さらには事務局に対する優しいねぎらいのお言葉に、敬服した次第です。

「統合後の事務局を一度見に行くからね」と、言っていたのですが、叶わぬ夢となり残念でなりません。安らかなご冥福を衷心からお祈り申し上げます。

(社)三重県雇用開発協会 事務局長 東山 拾也



ありし日を偲んで

日本経済の夜明け前の一番暗くて、冷えこんだ時に当協会第9代の会長に就任された藤井顧問は高い志を持った慈愛深い指導者でした。

スポーツをこよなく愛された藤井顧問のフェアプレーの精神は、この時期、雇用問題に苦しんでいた労使関係の取り組みにも大きな影響を与え、労使の協働事業である「三重県地域労使就職支援機構」の使側代表として組合側の信頼を得て、その立ち上げに尽力されました。その結果は、経済の回復に伴って三重県の雇用も改善され、今や有効求人倍率は、愛知、東京に次いで全国第3位となる好成績をあげております。

健康を害されたため、わずか4年間の短い期間でしたが、お酒を飲んで皆んなと楽しく過されることが大好きだった藤井顧問。第5回三重経協県外視察会で、顧問がとても懇意にされていた「壺阪寺」の特別拝観で自らご案内してくださったお姿、そして60周年経協ロゴマークを設定されたこと、今思い出しても温かいお人柄がしのばれ、もう一度お会いしたいとの思いで一杯です。

藤井顧問、ありがとうございました。安らかに眠りください。

三重県経営者協会 専務理事 平松 敏

経協事業活動

労務管理改善協力委員会例会



去る7月20日(木)、プラザ洞津にて開催（出席者37名）今回は第15期の最終例会と16期の新役員・部会編成並びに第1回例会の開催です。

1 第15期最終例会

大西会長より挨拶があり3部会（職場に活力を生む人事管理を目指す部会・活力ある職場風土を目指す部会・HRD部会）の部会長より活動報告がなされた。

第16期労務管理改善協力委員会発足

総合テーマ 「人口減少社会の到来と少子・高齢化の進展に対応する企業のあり方」
～多様な人材が持つ能力を活かし創造性と個性を発揮できる人事管理を目指して～

- 会 長 瀬田孝宣 (株)ホンダ・エクスプレス 総務人事ブロックリーダー
- 副会長 柳生邦雄 (株)エムネット四日市研修センター メディカルセーフティコーチ
- 副会長 長田泰宏 (株)小林機械製作所 専務取締役（北勢地区支部長）
- 副会長 市川喜万 (株)トーエネック三重支店 総務部長（中勢地区支部長）
- 副会長 阿竹孝二 (株)ぎゅーとら 取締役管理部長（南勢地区支部長）
- 副会長 長谷川恵一 (株)安永 人事総務部長（伊賀地区支部長）

※新役員決定後、会長が人事異動により、当面は副会長が代理をすることになりました。

第1部会 「現場力向上を目指す部会」

- 部 会 長 藤沢侑三 (株)中部近鉄百貨店総務部長
- 副部会長 秋葉 覚 中部電力(株)三重支店人事課長
- 副部会長 野呂利幸 (株)松阪鉄工所取締役経営管理部長

部会員

会 社 名	役 職 名	氏 名
(株) 赤 福	労 務 担 当 ス タ ッ プ	鈴 木 宏
(株) アバンセコーポレーション	三 重 営 業 所 所 長	大 野 克 彦
石原産業(株) 四日市工場	総務グループマネージャー	満 仲 忠 司
井 村 屋 製 菓 (株)	総 務 課 長	岩 上 真 人
宇 野 重 工 (株)	総 務 部 長	石 塚 弘
(株)エムネット四日市研修センター	セ ン タ ー 長	小 野 輝 幸
〃	メディカルセーフティコーチ	柳 生 邦 雄
(株) お や つ カ ン パ ニ ー	総 務 人 事 課 課 長	口 野 和 也
(株) 賢 島 宝 生 苑	総 務 部 課 長	山 口 裕 久
(株) 菊 川 鉄 工 所	総 務 課 長	楠 木 真 由 美
(株) ぎ ゅ ー と ら	取 締 役 管 理 部 長	阿 竹 孝 二
近畿日本鉄道(株)名古屋輸送統括部	運 輸 課 長	原 恭
クレハエラストマー(株)	労 務 課 長	奥 山 吉 孝
(株) 小 林 機 械 製 作 所	専 務 取 締 役	長 田 泰 宏
三 交 興 業 (株)	総 務 部 長	別 府 通 孝
(株) 三 交 ド ラ イ ビ ン グ ス ク ー ル	取 締 役 社 長 室 部 長	古 市 正 典
(株) 三 交 百 貨 店	総 務 部 長	藤 垣 広 希
三 交 不 動 産 (株)	総 務 部 長	坂 井 義 行
三 交 旅 行 (株)	常 務 取 締 役	関 司 正 人